

保護者サポートと感謝の心理プロセス ～ 大学生卓球選手に着目して ～

森 美優

指導教員 中村 直人

研究背景

大学生アスリートにとって、家族からのサポートは競技生活の継続や心理的安定に大きく影響する。しかし、保護者のサポートが競技満足度や継続意欲にどのように作用するのか、またその過程で感謝がどのような役割を果たすのかについては十分に明らかにされていない。特に卓球競技は個人種目であり、家庭環境の影響を受けやすい点から、このテーマの重要性は高い。

研究目的

本研究は、大学生卓球選手における保護者のサポートが、競技満足度および継続意欲にどのような影響を及ぼすのかを明らかにするとともに、全体的感謝および感謝の質が、その関係にどのように関与するのかを検討することを目的とする。

研究方法

YSPS-Q を基に再構成したサポート尺度、GRAT-SF の 4 因子平均得点（感謝の質）、GQ-6（全体的感謝）、SWLS を参考に作成した競技満足度、独自作成の継続意欲項目を含む質問紙調査を実施した。回答形式はすべて 7 段階リッカート法で統一した。相関分析および媒介分析を用いて関連構造を検討した。

分析結果

サポートは競技満足度と有意に関連し、感謝の質とも正の関連を示した。一方、全体的感謝は競技満足度との関連が弱く、媒介効果は認められなかった。感謝の質は弱い媒介傾向を示したが、有意には至らなかった。継続意欲については感謝との関連がみられず、媒介分析は行わなかった。

考察・結論

保護者のサポートは感謝を介さずに満足度へ直接影響する可能性が示された。練習環境の安定や経済的支援といったサポートそのものが安心感につながるためだと考えられる。一方、全体的感謝には媒介効果がみられなかったが、感謝の質には弱い媒介傾向が認められ、サポートの受け止め方が満足度にわずかに関与することが示唆された。継続意欲については感謝との関連がみられず、将来の見通しや身体的負担など他の要因が影響すると考えられる。これらの結果から、サポートの影響過程と感謝の関連性が明確となり、満足度と継続意欲が異なるプロセスで形成される可能性が示された。本研究は、保護者サポートの心理的影響理解に貢献する。